



## OPRTプレスリリース

令和5年1月20日

### 令和4年度 第2回OPRTセミナー（ウェブ上での資料掲示方式）のお知らせ

OPRTは、今年度の第2回セミナーをウェブ上の資料掲載方式により下記要領にて開催いたします。

閲覧を希望される会員におかれましては、2月2日（木）14:00までに閲覧希望の連絡をお送り下さい。閲覧に必要なパスワードをOPRTからお知らせします。

#### 記

1. 開催方式：アクセス制限を設けたOPRTウェブサイト上での、資料掲示方式
2. 掲示期間：令5年2月6日(月)10:00～10日(金)16:00まで  
なお、内容についての質問については、2月10日(金)24:00までEメールで送信できれば、後日回答を返信いたします。
3. 標 題：大西洋クロマグロのMSE（管理戦略評価）
4. 内容・作成者：  
大西洋クロマグロは、大西洋まぐろ類保存国際委員会（通称ICCAT）により長年管理されてきましたが、2000年代初頭には違法漁獲が大きな問題となり、資源の悪化と相まって2010年のワシントン条約締約国会議において商業取引禁止が提案されるなど、なにかと世間の注目を集めることが多い魚です。  
ICCATにおいては大西洋クロマグロの管理戦略評価(Management Strategy Evaluation: MSE)により管理手続き(Management Procedure: MP)を導入する試みが長年行われ、2022年の年次会議で最終化され、これにより総許容漁獲量(TAC)が計算されることとなりました。  
既にみなみまぐろ保存委員会ではMPによりミナミマグロのTACを計算しており、ICCATでも北大西洋ビンナガ資源についてMPを導入してTACを計算していますが、大西洋クロマグロは東西2つの資源に分かれ、東西資源の混交を考慮したMPとなっており、ミナミマグロや北大西洋ビンナガよりも複雑な構造となっています。  
当機構専務の太田は、2007年からICCATの会議に出席し、2018年からは大西洋クロマグロを扱う小委員会（パネル2）の議長としてこのプロセスを見てきており、これがどう始まりどう終わったか、議論の過程で何が問題となりどう解決されたかをレビューすることで、今後のマグロ類のMSEプロセスの参考になるのではないかと考え、この資料を作成しました。
5. 対象・閲覧方法：OPRT会員、賛助会員を対象とします。  
(それ以外の方は事前にOPRTの賛助会員へ加入登録することで閲覧可能。)

閲覧希望者は、2月2日(木)14:00までに、OPRT (maguro@opr.or.jp)へ、Eメールにて「閲覧希望」の旨のご連絡をお願いします。

2月3日正午までに掲示サイトへのアクセスのためのパスワードをEメールでお届けします。

(問合せ先) (一社) 責任あるまぐろ漁業推進機構  
事務局長：千代、事業部長：人見  
TEL：03-6256-9138 FAX：6256-9139  
Eメール：maguro@opr.or.jp